

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
松本貞次

新体制でスタート
第60回県連大会

第60期県連大会を6月7日、和歌山県勤労福祉会館・プラザホープでひらき、277人の代議員が結集した。

はじめに、松本貞次・委員長代行から

「今年、敗戦70年。解放運動をすすめるなかで、なにを考え、なにをすべきか。敗戦70年の歴史と今ある部落の現状は、50年前に内閣府から「同対審」答申がだされた。部落差別の解決は国の責務であり、国民的課題であると位置づけた。

50年前の自身のムラはどういう状態であったのか。日本全国の兄弟姉妹の

現状はまさに、人間以外の人間として阻害されてきた。われわれは差別の実態をふまえ、運動の方向を示すべき。県連再建40年というなかで、37年間県連の柱として闘ってきた中澤前委員長が亡くなった。多くの先輩がよき日をめざして闘ってきた歴史と伝統ある運動をしっかりと守り、受け継ぐ使命と責任がある。今大会は、新しい執行部を選出し、未来をみすえた新たな組織づくりがすすめら

れる。中澤前委員長亡き後、歴史と伝統ある解放運動を受け継ぐ使命と責任を果たそう」とあいさつと選挙のお礼があった。

大会では、2014年度の経過報告ならびに2015年度活動報告・予算(案)が可決された。また、本年は昨年11月23日に中澤敏浩・前執行委員長が逝去したこと、役員選挙があった。

部落解放同盟和歌山県連合会
60回 期大



あいさつする藤本哲史・新執行委員長

◆新役員 執行委員長 藤本哲史(杭ノ瀬)
書記長 宮本修作(那賀)



あたらしく就任した宮本修作・書記長

- ◆中央本部 坂本三郎・執行副委員長
- ◆国会議員 石田真敏・衆議院議員、岸本周平・同議員、門博文・同議員、井本庄一・二階俊博衆議院議員秘書、木野十三・浮島智子同秘書、谷野彰紀・世耕弘成参議院議員秘書、須崎弘一・鶴保庸介同秘書

- ◆行政・議会 尾花正啓・和歌山市長、渡邊匡道・田辺市、堀口泰令・同市、松井紀博・和歌山市議会副議長、山本忠相・同議会議員、中塚隆・同議会議員

◆各種団体

- 小林茂・連合和歌山会長、田上武・部落解放・人権行政確立要求和歌山県実行委員会会長、杉谷雅史・部落解放和歌山県共闘会議議長、赤松明秀・同和問題にとりくむ和歌山県宗教教団連絡協議会議長、津村清信・同協議会、岡本秀人・和歌山同和問題企業連絡会、野口宗宏・自治労和歌山県本部執行委員長、岡本啓亨・和歌山県職員労働組合執行委員長、湯川恭英・和歌山県商工会連合会事務局長、水田守一・情報労連和歌山県協議会事務局次長、川合廣征・近大付属新宮高等学校・中学校校長

◆メッセージ

- 愛知県連、大阪府連、兵庫県連、京都府連、広島県連、香川県連、山口県連、島根県連、佐賀県連

◆祝電

- 二階俊博・衆議院議員、石田真敏・同議員、岸本周平・同議員、門博文・同議員、浮島とも子・同議員、世耕弘成・参議院議員、鶴保庸介・同議員

◆行政・議会

- 介・同議員 神出正巳・海南市長、平木哲朗・橋本市長、望月良男・有田市、真砂充敏・田辺市長、田岡実千年・新宮市長、中村慎司・紀の川市長、中芝正幸・岩出市長、寺本光嘉・紀美野町長、井本泰造・かつらぎ町長、岡本章・九度山町長、平野嘉也・高野町長、上山章善・湯浅町長、西岡利記・広川町長、松本秀司・日高町長、市木久雄・日高川町長、井潤誠・白浜町長、小出隆道・上富田町長、岩田勉・すさみ町長、武田丈夫・古座川町長、奥田貢・北山村長、田嶋勝正・串本町長

健康

テレビで「安保法制」に反対する若者の姿が映し出されている。若者たちのラップやシニョレヒコールが国会周辺に響き渡る。多くの国民

◆各種団体

- 戸上良章・和歌山同和問題企業連絡会代表幹事、裏野勝也・和歌山県平和フォーラム代表、野見山海・社会民主党和歌山県連合代表、奥田均・部落解放・人権研究所代表理事、谷川雅彦・同所長

(順不同)

の意思を無視して、安倍・自公政権が成立に向け強引に突っ走っているなか、反対の声が日増しに高まり、そして今、若者たちが：戦争を知らない多くの政治家の暴走に、戦争を知る高齢者の危機感がつり、反対の声が広まっていった。

▼「70年安保」以降、高度成長ともあいまって、若者と政治との距離を広げてきた。いま「18才、選挙権」が現実のものになってきているが「思慮の浅い」「分別のない」として批判的な「大人」も多い。しかし、考えれば「思慮の浅い、分別のない(馬鹿な)大人」も多いのである。「18才、選挙権」もこうした「馬鹿な大人」の思惑(簡単にとり込めるだろうとの)もあってのことだろうか：▼「安保法制」への若者たちの行動は、実は「当事者」としての行動であり、私たち「馬鹿な大人」への問いかけである。「戦場へ行くのは、あなた達でなく、私たちが」と▼さらに「馬鹿な大人(政治家)」の話だが、先日「マスコミを懲らしめる」との発言があったが、「黄門さま」の気分なのか、とにかくこんな「政治家達」によって「安保法制」がすすめられているのである▼70年目の「夏」は「日本の未来」を決める「夏」になる。

(S・I)